

「AIP: Advanced Integrated Intelligence Platform Project
人工知能／ビッグデータ／IoT／サイバーセキュリティ
統合プロジェクト」に係る評価の視点(事務局案)

平成 27 年 10 月 20 日
評価専門調査会
評価検討会

【視点1】 将来ビジョン(世の中が目指している社会の姿)

- (1) 本プロジェクトは 10-15 年後の経済成長や産業構造の変革、社会・科学技術の発展にどのように貢献し、我が国の課題をどのように解決するものと想定しているか。また、国費を投入して実施することの意義と目的は示されているか。

(将来ビジョンの策定)

【視点2】 開発戦略、実施内容等の妥当性

- (1) 本プロジェクトは、国内外の潮流や我が国の強み・弱みに照らして、10-15 年後を見据えたものとして妥当と言えるか。産業界や社会のニーズを考慮したものになっているか。特に、我が国の産業競争力やグローバル競争力の強化に資する取組になっているか。

(我が国の強み・弱み、産業界や社会のニーズ、産業競争力の強化)

- (2) プロジェクト全体としての成果目標や重点化すべき研究領域、スケジュール、予算配分等の開発戦略は明確か。とりわけ、プラットフォームの姿は具体化されているか。

(開発戦略の具体性)

- (3) 研究開発テーマの選定や開発スケジュールを具体化するプロセスは示されているか。当面の開発課題やスケジュールは明確か。将来の種を創出する基礎的なテーマと、短期での成果創出を見込むテーマをバランスよく選定する仕組みが想定されているか。倫理的・社会的な課題など人文科学面での検討を行う仕組みはあるか。

(研究開発内容の具体化プロセス)

- (4) AIP センターおよび新領域開拓者支援における人材育成方針は明確になっているか。

(人材育成の方針)

【視点3】 研究開発マネジメントの妥当性

- (1) AIP センターが、オールジャパンを超越して世界中の一流の研究者を集めたグローバルな研究開発の拠点となっているか。また、優れたリーダー(センター長)の下、研究者の独創性をくみ上げ、柔軟に研究開発プロジェクトを運営できる体制となっているか。とりわけ、センター長の役割、権限、責任は明確か。

(実施体制、リーダーの役割)

- (2) 産学官が並走・協働して研究開発を進める仕組みになっているか。特に、産業界との連携の在り方は明確になっているか。**(産学官の協働)**
- (3) グローバルな研究開発体制を構築する上で海外への技術流出等への配慮はなされているか。**(海外への技術流出)**
- (4) 経済産業省、総務省との連携は具体化されているか。すなわち、3省の関連研究開発の関係を整理した上で、適切な役割分担の下で一元的に機能し、シナジー効果をもたらす具体的な取組となっているか。3省間における協調領域と競争領域は明確になっているか。**(府省間の密な連携)**
- (5) 3省の連携による研究開発成果が、各府省に広く横展開できる仕組みになっているか。**(横展開の考慮)**
- (6) 技術の進展や社会情勢の変化を機敏にとらえ、当初の目標達成に拘泥せず、必要に応じて目標や実施内容、実施体制等を柔軟に見直し、資源配分に反映させるための仕組みはあるか。**(推進体制の柔軟性)**
- (7) プロジェクトの進捗状況を客観的に把握し、社会情勢の変化に照らし、その妥当性を評価する仕組みは整備されているか。**(評価の体制・あり方)**
- (8) 新領域開拓者支援における研究開発の体制および方針は明確か。AIP センターと一体になって実施できる取組となっているか。**(新領域開拓者支援の方針)**